

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



活躍した年:

1844~1933年



活躍した分野:

実業家



ゆかりのある場所:

芳井歴史民俗資料館



うま こし

馬越

きょうへい

恭平

新高見市
高梁社市
総社市
早島市
倉敷市
矢掛市

井原市

浅里庄町
里口町
笠岡市



うまこしきょうへい てんぽう

馬越恭平は、天保15（1844）年、今の井原市木之子町に生まれました。

こうじょうかん さかたにろうろう

興譲館の阪谷朗廬のもとで学び、大阪に出て丁稚奉公したのち、夜間学校で英語を学び、

めいじ

明治6（1873）年、先収会社（旧三井物産の前身である会社）に入社しました。この会

社が一時解散すると、恭平はいったん故郷に帰り、古くなっていた自分の家を直し、両親の

せいかつ あんてい みとど

生活の安定を見届けてから、再び上京しました。

あと きゅうみついぶっさん りじ

その後、旧三井物産の理事を経て、経営が苦しくなっていた子会社の日本麦酒（今のエビ

スビール）

に派遣され、経営改善に当たりました。やがて、社長に就任すると、銀座にビアホー

ルを

開くなどビールを売るためにいろいろなアイデアを出して会社を発展させました。また、

びる

ビール業界の再編にも取り組み、渋沢栄一（当時のサッポロビールの会長）や内閣に働きかけ、

びる

ビール業界の合併を勧め、自身が経営していた日本麦酒と大阪麦酒（今のアサヒビール）、札

ほろ

麦酒（今のサッポロビール）を合併し、大日本麦酒を誕生させました。この大日本麦酒は、

とうじ

当時のビールシェアの79%となり、中国への販路拡大にも努め、「東洋のビール王」と呼ば

れるまでになりました。

じもと たい

地元に対しても井笠鉄道の初代社長に就任したほか、郷土の教育や土木のために莫大な寄

ふ

付を行い、井原の発展におおいに貢献しました。その代表的なものに「馬越橋」と名づけら

はし

れた橋がありましたが、現在の橋はかけかえられたものです。